

道徳科	全年	単元	C (11) 公平	題材	学校の1人1人が互いに公平に接するために
-----	----	----	-----------	----	----------------------

本題材の学習目標  
 「志乃ちゃんは自分の名前が言えない」を素材として問題を見だし解決策を考える活動で、先生や周囲の生徒と加代との関わり方の違いに着目し、公平性の観点から相手の状況に合った関わり方を考えることを通して、誰もが尊重される行動を見いだすことができる

時	題材名	〈学習者の学びの過程〉	誰かが尊重される行動を見いだすことができる
1		探究のとびら 自分にとっては普通の言動でも、相手にとっては嫌なこと、辛いことになる場合があることに気付く。	もつと探究 レクシオン
2			
3			
4		めあてにつながる問題を掴ませる活動を仕組む	本題材での気づきを基に新たな課題を見いだしたり、できたこと・課題を振り返ったりする
5		探究のめあて 志乃ちゃんが何に困っているのかを捉え、相手の状況に合った関わり方を明らかにすることができる	(3年4組の中で見だしたいいくつかの解を全体で共有する) 「人とかがかわるときは、相手の話を傾聴して考えや気持ちを受け止め、互いが同じようにできるように配慮する」
6			探究のまとめ
7			
8		本題材のゴールの姿を示す	探究のめあて（問い）に対する解を確認する
9			
10		探究の見通し ①「志乃ちゃんは自分の名前が言えない」を読み、先生や周囲の生徒の関わりと加代の関わり方をつかむ ②周囲の生徒の関わりと加代の関わり方の違いをとらえる ③加代の関わり方の価値をとらえる	①各自で、周囲の生徒や加代がどのような関わりをしているのかをつかむ ②周囲の生徒と加代の関わり方の違いをグループで開き合い確認する ③加代の関わり方の価値についてグループで話し合い、3年4組の考えを全校で共有する
11			
12		見方や考え方を示して、課題解決の方向を捉えさせ、解決までの見通しをもたせる	「志乃ちゃんが周囲のみんなとコミュニケーションが取れるようになるためには、( )する(必要がある)」と整理

〈題材のルーブリック〉	評価規準	S	A	B	C
	自分の感じ方だけで判断せず、相手の困り方に応じた関わり方を考えることができたか	同じ言葉や行動でも相手によって受け止め方が違うことを踏まえ、相手の困り方に応じた関わり方や方法・環境の工夫を具体的に示している	相手の困り方を踏まえ、その人に合った関わり方を具体的に示している	相手が困っていることや、周囲の関わり方に問題があることを指摘している	自分の感じ方や、本人がどうすればよいかを中心に考え、相手のことを感が用としていない